

第 8 章 商品売買の処理(その 1)

[問題 8 - 1]

	当期 純売上高	当期 純仕入高	期首商品 棚卸高	期末商品 棚卸高	売上原価	売上総利益
大阪商店	50,000	30,000	10,000	(8,000)	32,000	(18,000)
福岡商店	80,000	60,000	(32,000)	10,000	82,000	(△2,000)

【解説】

期首商品棚卸高 + 純仕入高 - 期末商品棚卸高 = 売上原価

大阪商店: $10,000 + 30,000 - (8,000) = 32,000$

福岡商店: $(32,000) + 60,000 - 10,000 = 82,000$

純売上高 - 売上原価 = 売上総利益

大阪商店: $50,000 - 32,000 = (18,000)$

福岡商店: $80,000 - 82,000 = (\triangle 2,000)$

[問題 8 - 2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕 入	300,000	買 掛 金	300,000
(2)	売 掛 金	400,000	売 上	400,000
(3)	売 上	100,000	売 掛 金	100,000
(4)	売 掛 金 発 送 費	600,000 10,000	売 上 現 金	600,000 10,000
(5)	仕 入	120,000	買 掛 金 現 金	105,000 15,000
(6)	買 掛 金	100,000	現 金	100,000
(7)	売 上 現 金	25,000 400,000	売 掛 金	425,000

【解説】

(3) (7) 売上値引・戻りについては、売上時と反対の仕訳を行う。本問では、売上勘定と売掛金勘定をそれぞれ減少させる。

(5) 次の仕訳をまとめたものである。

(借方) 仕 入 120,000 (貸方) 買 掛 金 120,000
買 掛 金 15,000 現 金 15,000

[問題 8 - 3]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	神戸商店	4,600	売 上	4,600
(2)	大阪商店 発 送 費	8,000 400	売 上 現 金	8,000 400
(3)	売 上	800	大阪商店	800
(4)	仕 入	3,600	京都商店	3,600
(5)	仕 入	3,200	西宮商店 現 金	3,000 200
(6)	現 金	7,000	大阪商店	7,000

(7)	西宮商店	2,600	現金	2,600
(8)	売上	400	神戸商店	400
(9)	京都商店	3,000	現金	3,000
(10)	現金	4,000	神戸商店	4,000

[問題 8 - 4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8/2	商品	34,500	現金	34,500
8	商品	17,400	買掛金	17,400
12	売掛金	16,000	商品	12,000
			商品売買益	4,000
16	現金	21,000	商品	15,000
			商品売買益	6,000

現金		1
8/16	諸口	21,000
8/2	商品	34,500

売掛金		2
8/12	諸口	16,000

商品		3
8/2	現金	34,500
8/12	売掛金	12,000
8	買掛金	17,400
16	現金	15,000

買掛金		4
8/8	商品	17,400

商品売買益		8
8/12	売掛金	4,000
16	現金	6,000

【解説】

商品を仕入れた時には**商品**勘定の**借方**に仕入原価を記入し、商品を販売した時には、仕入原価と販売益(売価と売上原価との差額)とを区別して、仕入原価は**商品**勘定の**貸方**に記入し、販売益は**商品売買益**勘定の**貸方**に記入する。

なお、決算時には、商品勘定の残高は次期に繰り越し、商品売買益勘定の残高は**損益**勘定の**貸方**に振り替える。

[問題 8 - 5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8/2	仕入	34,500	現金	34,500
8	仕入	17,400	買掛金	17,400
12	売掛金	16,000	売上	16,000
16	現金	21,000	売上	21,000

現金		1
8/16	売上	21,000
8/2	仕入	34,500

売掛金		2
8/12	売上	16,000

買掛金		4
8/8	仕入	17,400

売上		7
8/12	売掛金	16,000
16	現金	21,000

仕入		9
8/2	現金	34,500
8	買掛金	17,400

【解説】

三分法では、売上勘定、仕入勘定、繰越商品勘定の三勘定を用いて処理を行う。商品を仕入れた時には仕入勘定の借方に仕入原価を記入し、商品を販売した時には売上勘定の貸方に売価を記入する。

なお、決算時には、実地棚卸によって期末商品棚卸高を求め、商品売買損益を別途算定する。

[問題 8 - 6]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
9 / 4	仕入	30,000	現金	30,000
9	売掛金	24,000	売上	24,000
15	仕入	25,000	買掛金	25,000
20	現金	17,000	売上	17,000

繰越商品	
前期繰越	10,000

売上	
9/9	売掛金 24,000
20	現金 17,000

仕入	
9/4	現金 30,000
15	買掛金 25,000

【解説】

三分法では商品を売り上げた場合、売価で記入するので取引において与えられる原価データは仕訳に関係がない点に注意すること。

[問題 8 - 7]

繰越商品				売上			
前期繰越	10,000	仕 入	10,000	売 上	39,000	現 金	9,000
仕 入	15,000	次期繰越	15,000			売 掛 金	30,000
	25,000		25,000		39,000		39,000

仕 入				損 益			
買 掛 金	15,000	繰越商品	15,000	仕 入	31,000	売 上	39,000
現 金	21,000	損 益	31,000				
繰越商品	10,000						
	46,000		46,000				

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
仕 入	10,000	繰 越 商 品	10,000
繰 越 商 品	15,000	仕 入	15,000
損 益	31,000	仕 入	31,000
売 上	39,000	損 益	39,000

[問題 8 - 8]

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
仕 入	120,000	繰 越 商 品	120,000
繰 越 商 品	130,000	仕 入	130,000
損 益	530,000	仕 入	530,000
売 上	740,000	損 益	740,000

繰 越 商 品				3
前期繰越	120,000	仕 入	120,000	
仕 入	130,000	次期繰越	130,000	
	250,000		250,000	
前期繰越	130,000			

売 上				7
損 益	740,000	売上高	740,000	

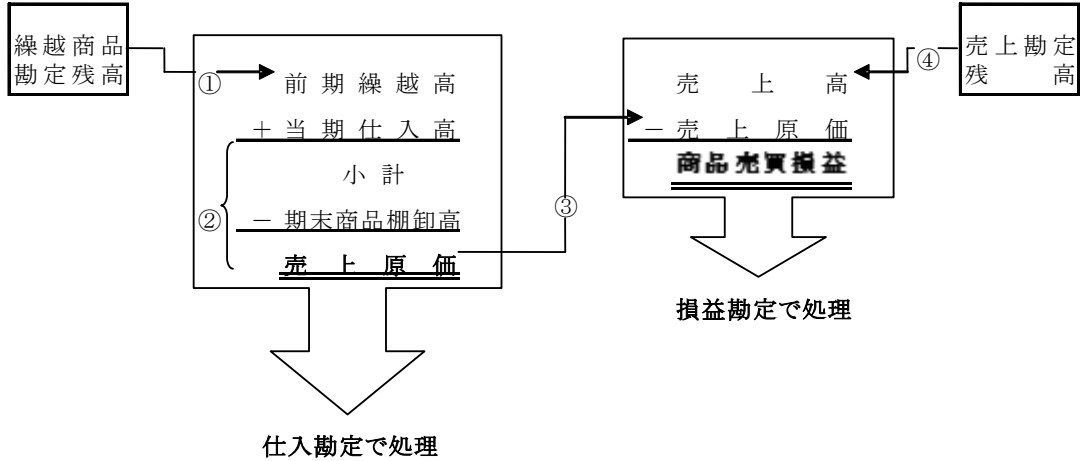
仕 入				9
仕 入 高	540,000	繰越商品	130,000	
繰越商品	120,000	損 益	530,000	
	660,000		660,000	

損 益				12
仕 入	530,000	売 上	740,000	

【解説】

- ① 繰越商品勘定の前期繰越高を仕入勘定の借方に振り替える。
- ② 期末商品棚卸高を繰越商品勘定の借方と仕入勘定の貸方に記入する。
- ③ 仕入勘定の借方残高(=売上原価)を損益勘定の借方に振り替える。
- ④ 売上勘定の貸方残高を損益勘定の貸方に振り替える。

なお、上記の①～④は、記載順に解答の仕訳に対応している。



[問題 8 - 9]

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	120,000	繰越商品	120,000
売上原価	540,000	仕入	540,000
繰越商品	130,000	売上原価	130,000
損益	530,000	売上原価	530,000
売上	740,000	損益	740,000

繰越商品		3	
前期繰越	120,000	売上原価	120,000
売上原価	130,000	次期繰越	130,000
	250,000		250,000
前期繰越	130,000		

売上		7	
損益	74,000	売上高	74,000

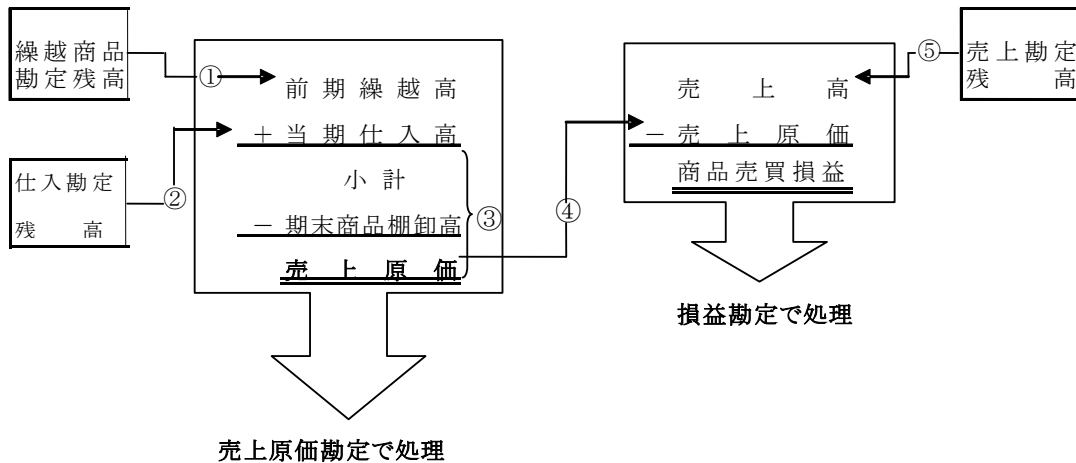
仕入		9	
仕入高	540,000	売上原価	540,000
		損益	12
売上原価	530,000	売上	740,000

売上原価				11	
繰越商品	120,000	繰越商品	130,000		
仕入	540,000	損益	530,000		
	660,000		660,000		

【解説】

- ① 繰越商品勘定の前期繰越高を売上原価勘定の借方に振り替える。
- ② 仕入勘定の借方残高(=当期仕入高)を売上原価勘定の借方に振り替える。
- ③ 期末商品棚卸高を繰越商品勘定の借方と売上原価勘定の貸方に記入する。
- ④ 売上原価勘定の借方残高(=売上原価)を損益勘定の借方に振り替える。
- ⑤ 売上勘定の貸方残高を損益勘定の貸方に振り替える。

なお、上記の①～⑤は、記載順に解答の仕訳に対応している。



[問題 8 - 1 0]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
10 / 4	仕 入	420,000	買 掛 金 現 金	400,000 20,000
7	買 掛 金	20,000	仕 入	20,000
14	売 掛 金 発 送 費	95,000 3,500	売 上 現 金	95,000 3,500
21	売 掛 金	82,000	売 上 現 金	80,000 2,000
28	売 上	5,000	売 掛 金	5,000

【解説】

10/21 の仕訳について立替金勘定を用いる場合、次のとおりである。

(借方) 売掛金 80,000 (貸方) 売 上 80,000
 立替金 2,000 現 金 2,000

[問題 8 - 1 1]

<大阪商店>

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/2	売掛金	302,500	売 上 現 金	300,000 2,500
	または			
	売掛金 立替金	300,000 2,500	売 上 現 金	300,000 2,500
9	現 金 発送費	100,000 1,500	売 上 現 金	100,000 1,500
	または			
	現 金 発送費	98,500 1,500	売 上	100,000

<東京商店>

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/2	仕 入	302,500	買掛金	302,500
9	仕 入	100,000	現 金	100,000

【解説】

仕入に伴う諸費用(仕入諸掛)……仕入原価に含める。

売上に伴う諸費用(売上諸掛)……売り手負担→発送費等の費用の各勘定で処理。

買い手負担→売掛金または立替金勘定で処理。

[問題 8 - 1 2]

売上原価の計算

期首商品棚卸高	¥ (360,000)
当期仕入高	¥ (513,500)
小 計	¥ (873,500)
期末商品棚卸高	¥ (290,000)
売上原価	¥ (583,500)

売上総利益の計算

売 上 高	¥ (842,300)
売 上 原 価	¥ (583,500)
売上総利益	¥ (258,800)

【解説】

仕		入		
総仕入高	540,000	仕入値引高	3,500	
(純仕入高)	513,500	仕入戻し高	23,000	
繰越商品(期首)	360,000	繰越商品(期末)	290,000	
		損	益	583,500 } =売上原価
	900,000			
				900,000

ただし、売上原価は仕入勘定で算定するものとして説明している。

仕入値引・仕入戻し……………仕入時と反対の処理(仕入勘定の貸方に記入)。

当期仕入高は、純額で計算する。

当期仕入高 = 総仕入高 - (仕入値引高 + 仕入戻し高)

$$¥ 513,500 = ¥ 540,000 - (¥ 3,500 + ¥ 23,000)$$

売		上	
売上値引高	4,700	総売上高	890,000
売上戻り高	43,000	(純売上高)	842,300
損	益	842,300	
		890,000	890,000

売上値引・売上戻り……………売上時と反対の処理(売上勘定の借方に記入)。

売上高は、純額で計算する。

売上高 = 総売上高 - (売上値引高 + 売上戻り高)

$$¥ 842,300 = ¥ 890,000 - (¥ 4,700 + ¥ 43,000)$$

売上総利益 = 売上高 - 売上原価

$$¥ 258,800 = ¥ 842,300 - ¥ 583,500$$

[問題 8-13]

	商品棚卸高		総仕入高	総売上高	仕入 戻し高	売上 戻り高	売上 原価	売上 総利益
	期首	期末						
1	6,000	(7,800)	48,000	(57,000)	300	600	45,900	10,500
2	(6,000)	4,800	36,000	44,000	400	(600)	36,800	6,600

【解説】

・総仕入高 - 仕入戻し高 = 純仕入高

- ・総売上高－売上戻り高＝純売上高
- ・期首商品棚卸高＋純仕入高－期末商品棚卸高＝売上原価
- ・純売上高－売上原価＝売上総利益

1: $48,000 - 300 = 47,700$ (純仕入高)

$45,900 + 10,500 = 56,400$ (純売上高)

$56,400 + 600 = 57,000$ (総売上高)

$6,000 + 47,700 - (7,800) = 45,900$ (売上原価)

$56,400 - 45,900 = 10,500$ (売上総利益)

2: $36,000 - 400 = 35,600$ (純仕入高)

$44,000 - (600) = 43,400$ (純売上高)

$(6,000) + 35,600 - 4,800 = 36,800$ (売上原価)

$43,400 - 36,800 = 6,600$ (売上総利益)

第9章 商品売買の処理(その2)

[問題 9 - 1]

仕 入 帳

×	年	摘 要	内 訳	金 額
5	1	神戸商店 掛		
		A 商品 100 個 @ ¥150	15,000	
		引取運賃現金払い	300	15,300
	16	京都商店 諸口		
		A 商品 50 個 @ ¥180	9,000	
		B 商品 100 〃 〃 〃 120	12,000	21,000
	20	京都商店 掛返品		
		A 商品 10 個 @ ¥180		1,800
	31	総 仕 入 高		36,300
		仕入値引・戻し高		1,800
		純 仕 入 高		34,500

※ 太文字は赤字を示している。

【解説】

仕入帳に記入する場合に注意すべき点は、次のとおりである。

- (1) 日付欄は、実際に月が変わるか、仕入帳のページが変わらない限り、月は最初に書くだけでよい。また、同一日付で2組以上の仕訳がある場合は、2組目からの日の記入は繰り返し記号(〃)を使う。
- (2) 摘要欄は、取引ごとに区切り線を引く。なお、その仕訳が当該ページの最後に記入される仕訳である場合、区切り線は引かない。
- (3) 締切りを行う際、日付欄にその月の最終日、摘要欄に総仕入高、仕入値引・戻し高を記入し、一本線を入れる。なお、仕入値引・戻し高は赤字で記入する。
- (4) 総仕入高は当月の仕入金額の合計である(本問では5月1日の仕入金額¥15,300と5月16日の仕入金額¥21,000の合計)。総仕入高には仕入値引・戻し高は含まれない。
- (5) 総仕入高と純仕入高の関係は以下のとおりである。

$$\text{純仕入高} = \text{総仕入高} - \text{仕入値引} \cdot \text{戻し高}$$
- (6) 2種類以上の商品を仕入れた時には、それぞれの金額を内訳欄に記入する。
- (7) 仕入諸掛は仕入代金とは区別して記入し、取引ごとに仕入代金と合計する。なお、内訳欄の金額を合計する場合は内訳欄に赤線を引き、金額欄に合計金額を記入する。また、摘要欄の赤線は取引ごとの区切りを示す赤線なので、内訳欄の赤線とは一体ではないことに注意する。
- (8) 5月1日の引取運賃は仕入諸掛なので、仕入原価に含める。
- (9) 5月16日の「諸口」は「現金および掛」でもよい。

[問題 9 - 2]

(1) 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/ 1	仕 入	382,000	買 掛 金 現 金	380,000 2,000
8	買 掛 金	20,000	仕 入	20,000
17	買 掛 金	10,000	仕 入	10,000
25	仕 入	312,000	現 金 買 掛 金	250,000 62,000

(2) 勘定記入

仕 入			
6/ 1 諸 口	382,000	6/ 8 買 掛 金	20,000
25 諸 口	312,000	17 買 掛 金	10,000

(3) 仕入帳記入

仕 入 帳			
× 年	摘 要	内 訳	金 額
6	1 福岡商店 掛		
	トレーナー 150 枚 @ ¥2,000	300,000	
	Tシャツ 80 〃 〃 〃 1,000	80,000	
	引取運賃現金払い	2,000	382,000
	8 福岡商店 掛返品		
	トレーナー 10 枚 @ ¥2,000		20,000
	17 福岡商店 掛値引		
	Tシャツ 50 枚 @ ¥200		10,000
	25 鹿児島商店 諸口		
	トレーナー 80 枚 @ ¥2,100	168,000	
	Tシャツ 120 〃 〃 〃 1,200	144,000	312,000
	30 総 仕 入 高		694,000
	仕入値引・戻し高		30,000
	純 仕 入 高		664,000

※ 太文字は赤字を示している。

【解説】

1. それぞれの取引日における仕訳の注意点は、次のとおりである。

(1) 6月1日の仕訳について、引取運賃は仕入諸掛なので、仕入の金額に含める。

(2) 6月8日の仕訳について、返品した商品は6月1日に仕入れたものであるから、仕入と買掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は掛仕入と反対の仕訳となる。

(3) 6月17日の仕訳について、値引を受けた商品は6月1日に仕入れたものであるから、値引を受けた金額

だけ仕入と買掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は、掛仕入と反対の仕訳となる。

(4) 6月25日の仕訳について、仕入¥312,000のうち、現金での支払いが¥250,000で、残額が買掛金による支払いのため、¥62,000を買掛金の貸方に記入する。

2. 仕入帳に記入する場合に注意すべき点は、問題9-1の解説と同様である。

(1) 6月1日の金額は内訳欄に3行記入されている。内訳欄に赤線を引き、その合計¥382,000を金額欄に記入する。また、摘要欄には取引ごとに区切り線を引く。

(2) 6月25日の取引は、最後に記入される仕訳なので区切り線は引かない。

(3) 6月25日の「諸口」は「現金および掛」でもよい。

[問題9-3]

売 上 帳

×年		摘 要	内 訳	金 額
6	10	大阪商店 掛		
		B商品 10個 @ ¥150	1,500	
		C商品 100 " " " 190	19,000	20,500
	11	大阪商店 掛値引		
		C商品 100個 @ ¥6		600
	30	総 売 上 高		20,500
		売上値引・戻り高		600
		純 売 上 高		19,900

※ 太文字は赤字を示している。

【解説】

売上帳に記入する場合に注意すべき点は、次のとおりである。

- (1) 日付欄は、実際に月が変わるか、売上帳のページが変わらない限り、月は最初に書くだけでよい。また、同一日付で2組以上の仕訳がある場合は、2組目からの日の記入は繰り返し記号(〃)を使う。
- (2) 摘要欄は、取引ごとに区切り線を引く。なお、その仕訳が当該ページの最後に記入される仕訳である場合、区切り線は引かない。
- (3) 締切りを行う際、日付欄にその月の最終日、摘要欄に総売上高、売上値引・戻り高を記入し、一本線を入れる。なお、売上値引・戻り高は赤字で記入する。
- (4) 総売上高は当月の売上金額の合計である(本問で6月10日の売上金額¥20,500)。総売上高には売上値引・戻り高は含まれない。
- (5) 総売上高と純売上高の関係は以下のとおりである。

$$\text{純売上高} = \text{総売上高} - \text{売上値引} \cdot \text{戻り高}$$
- (6) 2種類以上の商品を販売した時には、それぞれの代金を内訳欄に記入する。
- (7) 売上帳には売上(収益)の発生と消滅のみを記入するので、売上諸掛は記入しない。なお、仕訳を行う際は、当方(売主)負担の場合は具体的な費用の勘定科目を用いて処理し、先方(買主)負担の場合は買

主に対する売掛金に含めて処理するか、これを立替金として処理する。

[問題 9 - 4]

(1) 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
10/ 1	売 掛 金	280,000	売 上	280,000
	発 送 費	3,000	現 金	3,000
12	売 上	96,000	売 掛 金	96,000
15	売 上	4,000	売 掛 金	4,000
24	現 金	300,000	売 上	445,000
	売 掛 金	149,000	現 金	4,000

(2) 勘定記入

売		上	
10/12 売掛金	96,000	10/ 1 売掛金	280,000
15 売掛金	4,000	24 諸 口	445,000

(3) 売上帳記入

×年		摘 要		内 訳	金 額
10	1	神戸商店	掛		
		A商品	20個 @ ¥8,000	160,000	
		B商品	20 " " @ ¥6,000	120,000	280,000
	12	神戸商店	掛返品		
		A商品	12個 @ ¥8,000		96,000
	15	神戸商店	掛値引		
		B商品	10個 @ ¥400		4,000
	24	東京商店	諸口		
		A商品	25個 @ ¥9,000	225,000	
		B商品	40個 @ ¥5,500	220,000	445,000
	31		総 売 上 高		725,000
			売上値引・戻り高		100,000
			純 売 上 高		625,000

※ 太文字は赤字を示している。

【解説】

1. それぞれの取引日における仕訳の注意点は、次のとおりである。

(1) 10月1日の仕訳について、発送費は当方負担であるため、発送費(費用)として処理する。

(2) 10月12日の仕訳について、返品された商品は10月1日に売り上げたものであるから、売上と売掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は掛売上と反対の仕訳となる。

(3) 10月15日の仕訳について、値引をした商品は10月1日に売り上げたものであるから、値引をした金額だけ売上と売掛金をそれぞれ減少させる。したがって仕訳は、掛売上と反対の仕訳となる。

(4) 10月24日の仕訳について発送費が先方負担であるため、現金で支払った¥4,000を東京商店に対する売掛金に含める。なお、これを立替金として処理してもよい。その場合、次のような仕訳となる。

(借方)	現 金	300,000	(貸方)	売 上	445,000
	売 掛 金	145,000		現 金	4,000
	立 替 金	4,000			

2. 売上帳に記入する場合に注意すべき点は、問題 9-3 の解説と同様である。

(1) 10月24日の「諸口」は「現金および掛」でもよい。

[問題 9 - 5]

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品名:ブラウス

× 年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	20	600	12,000				20	600	12,000
	5	仕 入	40	600	24,000				} 60	600	36,000
	12	仕 入	60	620	37,200					60	620
	18	売 上				} 60	600	36,000			
							20	620	12,400	} 40	620
	26	仕 入	20	580	11,600				20		580
	27	売 上				} 40	620	24,800			
							5	580	2,900	15	580
	30	次月繰越				15	580	8,700			
			140		84,800	140		84,800			
7	1	前月繰越	15	580	8,700				15	580	8,700

売 上 高	売 上 原 価	売 上 総 利 益
¥115,100	¥76,100	¥39,000

【解説】

1. 商品有高帳に記入する場合注意すべき点は、次のとおりである。

(1) 単価と金額は、すべて原価で記入する。特に、払出欄の単価として売価を記入しないように気を付けること。

(2) 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入する。

(3) 締切りを行う際、日付欄にその月の最終日、摘要欄に次月繰越、払出欄に残高欄の締切り直前の数量、

単価、金額をそれぞれ赤字で記入し、受入欄と払出欄に一本線を引く。次いで、受入欄と払出欄の数量と金額が一致することを確かめ、摘要欄を除くすべての欄に二本線を引いて締め切る。

(4) 開始記入にあたっては、日付欄にその月の初日、摘要欄に前月繰越、受入欄と残高欄に前月繰越の数量・単価・金額を記入する。

(5) 6月12日の引取運賃は仕入原価に加える。(60枚×@¥615+¥300=¥37,200)

(6) 6月29日の売上値引高¥1,500は、売上高が減少するだけで、売上原価は変化しないので商品有高帳に記入しない。

2. 先入先出法によって記入する場合に注意すべき点は、次のとおりである。

(1) 仕入単価が異なる商品が残高として残っている場合、および仕入単価が異なる商品を同時に払い出した場合には、それら単価の異なる商品を上下に並べて記入し、カッコでくる。

(2) 仕入単価の異なる商品を同時に払い出した場合には、先に受け入れた商品から順に払い出したと仮定して記帳する。

3. 売上高・売上原価・売上総利益の計算

(1) 売上高：6月18日 80枚×¥940=¥75,200

27日 45枚×¥920=¥41,400

29日 値引 ¥1,500

¥75,200+¥41,400-¥1,500=¥115,100

(2) 売上原価：商品売上時の払出欄の金額を合計することによって求められる(本問では¥36,000, ¥12,400, ¥24,800, ¥2,900の計¥76,100)

(3) 売上総利益：¥115,100-¥76,100=¥39,000

[問題9-6]

商品有高帳

(移動平均法)

品名:ブラウス

×年	摘要	受入			払出			残高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	20	600	12,000				20	600	12,000
	5	仕入	40	600	24,000				60	600	36,000
	12	仕入	60	620	37,200				120	610	73,200
	18	売上				80	610	48,800	40	610	24,400
	26	仕入	20	580	11,600				60	600	36,000
	27	売上				45	600	27,000	15	600	9,000
	30	次月繰越				15	600	9,000			
			140		84,800	140		84,800			
7	1	前月繰越	15	600	9,000				15	600	9,000

売上高	売上原価	売上総利益
¥115,100	¥75,800	¥39,300

【解説】

1. 移動平均法では、単価の異なる商品を仕入れるたびに、仕入前残高金額と受入金額の合計額を仕入前残高数量と受入数量の合計数量で除して平均単価を求める。つまり、残高として残っている商品の単価について常に平均を求めるという考え方である。次に単価の異なる商品を仕入れるまでは、この平均単価が払出単価となる。

- (1) 6月5日の仕入単価¥600は、直前の残高の単価と同じなので単純に合算するだけでよい。
- (2) 6月12日の仕入原価¥37,200と直前の残高金額¥36,000を合計(¥73,200)し、これを仕入数量60枚と直前の残高数量60枚の合計数量(120枚)で割って平均単価¥610を求める。
- (3) 6月26日の仕入原価¥11,600と直前の残高金額¥24,400を合計(¥36,000)し、これを仕入数量20枚と直前の残高数量40枚の合計数量(60枚)で割って平均単価¥600を求める。

2. 売上高・売上原価・売上総利益の計算

- (1) 売上高：問題9-5と同じ(¥75,200 + ¥41,400 - ¥1,500 = ¥115,100)
- (2) 売上原価：商品売上時の払出欄の金額合計(¥48,800 + ¥27,000 = ¥75,800)
- (3) 売上総利益：¥115,100 - ¥75,800 = ¥39,300

[問題9-7]

(1) 商品有高帳の記入

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品名：ネクタイ

×年	摘要	受入			払出			残高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	20	7,000	140,000				20	7,000	140,000
	12	仕入	20	6,000	120,000				20	6,000	120,000
	17	売上				20	7,000	140,000			
						10	6,000	60,000	10	6,000	60,000
	20	仕入	50	5,600	280,000				50	5,600	280,000
	26	売上				10	6,000	60,000			
						30	5,600	168,000	20	5,600	112,000
	30	次月繰越				20	5,600	112,000			
			90		540,000	90		540,000			
7	1	前月繰越	20	5,600	112,000				20	5,600	112,000

(2) 売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥(140,000)
当月商品仕入高	¥(400,000)
合 計	¥(540,000)
月末商品棚卸高	¥(112,000)
売上原価	¥(428,000)

(3) 売上総利益の計算

売上高	¥(470,000)
売上原価	¥(428,000)
売上総利益	¥(42,000)

【解説】

売上高・売上原価・売上総利益の計算

(1) 売上高：売上帳のネクタイの金額を集計（ $\text{¥}210,000 + \text{¥}260,000 = \text{¥}470,000$ ）

(2) 月初商品棚卸高：前月繰越の金額（本問では $\text{¥}140,000$ ）

当月商品仕入高：商品仕入時の受入欄の金額合計（本問では $\text{¥}120,000$ と $\text{¥}280,000$ の計 $\text{¥}400,000$ ）

月末商品棚卸高：次月繰越または最終取引終了後の残高の金額（本問では $\text{¥}112,000$ ）

売上原価： $\text{¥}140,000 + \text{¥}400,000 - \text{¥}112,000 = \text{¥}428,000$

または、商品売上時の払出欄の金額合計（ $\text{¥}140,000 + \text{¥}60,000 + \text{¥}60,000 + \text{¥}168,000 = \text{¥}428,000$ ）

(3) 売上総利益： $\text{¥}470,000 - \text{¥}428,000 = \text{¥}42,000$

[問題 9 - 8]

(1) 商品有高帳の記入

商 品 有 高 帳

(移動平均法)

品名：ネクタイ

× 年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	20	7,000	140,000				20	7,000	140,000
	12	仕 入	20	6,000	120,000				40	6,500	260,000
	17	売 上				30	6,500	195,000	10	6,500	65,000
	20	仕 入	50	5,600	280,000				60	5,750	345,000
	26	売 上				40	5,750	230,000	20	5,750	115,000
	30	次期繰越				20	5,750	115,000			
			90		540,000	90		540,000			
7	1	前期繰越	20	5,750	115,000				20	5,750	115,000

(2) 売上原価の計算

月初商品棚卸高	¥(140,000)
当月商品仕入高	¥(400,000)
合 計	¥(540,000)
月末商品棚卸高	¥(115,000)
売上原価	¥(425,000)

(3) 売上総利益の計算

売上高	¥(470,000)
売上原価	¥(425,000)
売上総利益	¥(45,000)

【解説】

売上原価の計算

月末商品棚卸高：次月繰越または最終取引終了後の残高の金額（本問では $\text{¥}115,000$ ）

売上原価： $\text{¥}140,000 + \text{¥}400,000 - \text{¥}115,000 = \text{¥}425,000$

または、商品売上時の払出欄の金額合計（ $\text{¥}195,000 + \text{¥}230,000 = \text{¥}425,000$ ）

[問題 9 - 9]

売掛金元帳

京都商店

×年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
7	1	前月繰越	350,000		借	350,000
	9	売上	80,000		〃	430,000
	15	返品		10,000	〃	420,000
	24	売上	50,000		〃	470,000
	31	入金		280,000	〃	190,000
	〃	次月繰越		190,000		
			480,000	480,000		
8	1	前月繰越	190,000		借	190,000

【解説】

売掛金元帳に記入する場合注意すべき点は、次のとおりである。

- (1) 売掛金元帳には得意先ごとの人名勘定が設けられる。本問では京都商店の勘定が示されているので、京都商店に対する売掛金の増減のみを記入する。
- (2) 売掛金元帳を締め切る時は、次月繰越の金額を貸方欄に赤字で記入し、借方・貸方の合計金額が一致することを確かめて締め切る。
- (3) 翌月 1 日の日付で、前月から繰り越された金額を借方欄と残高欄に記入する。
- (4) 売掛金元帳では常に借方に残高が生じるので、「借または貸」欄には「借」と記入する。

[問題 9 - 10]

買掛金元帳

山口商店

×年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
9	1	前月繰越		250,000	貸	250,000
	7	仕入		180,000	〃	430,000
	8	返品	90,000		〃	340,000
	18	仕入		160,000	〃	500,000
	29	支払	350,000		〃	150,000
	30	次月繰越	150,000			
			590,000	590,000		
10	1	前月繰越		150,000	貸	150,000

【解説】

買掛金元帳に記入する場合に注意すべき点は、問題 9-9 の解説と同様である。

[問題9-11]

総勘定元帳

売掛金

9/1 前月繰越	170,000	9/10 現金	50,000
5 売上	8,000	〃 現金	30,000
〃 売上	8,000	20 売上	1,000
10 売上	5,000	30 次月繰越	144,000
〃 売上	6,000		
20 売上	7,000		
〃 売上	5,000		
30 売上	6,000		
〃 売上	10,000		
	<u>225,000</u>		<u>225,000</u>

買掛金

9/5 現金	40,000	9/1 前月繰越	110,000
〃 現金	25,000	5 仕入	15,000
20 現金	10,000	〃 仕入	5,000
30 次月繰越	84,000	10 仕入	10,000
		〃 仕入	4,000
		20 仕入	10,000
		〃 仕入	5,000
	<u>159,000</u>		<u>159,000</u>

売掛金元帳

名古屋商店

9/1 前月繰越	100,000	9/10 回収	50,000
5 売上	8,000	30 次月繰越	76,000
10 売上	5,000		
20 売上	7,000		
30 売上	6,000		
	<u>126,000</u>		<u>126,000</u>

買掛金元帳

大阪商店

9/5 支払	40,000	9/1 前月繰越	60,000
30 次月繰越	45,000	5 仕入	15,000
		10 仕入	10,000
	<u>85,000</u>		<u>85,000</u>

横浜商店

9/1 前月繰越	50,000	9/10 回収	30,000
20 売上	5,000	30 次月繰越	35,000
30 売上	10,000		
	<u>65,000</u>		<u>65,000</u>

京都商店

9/5 支払	25,000	9/1 前月繰越	40,000
30 次月繰越	29,000	10 仕入	4,000
		20 仕入	10,000
	<u>54,000</u>		<u>54,000</u>

札幌商店

9/1 前月繰越	20,000	9/20 返品	1,000
5 売上	8,000	30 次月繰越	33,000
10 売上	6,000		
	<u>34,000</u>		<u>34,000</u>

神戸商店

9/20 支払	10,000	9/1 前月繰越	10,000
30 次月繰越	10,000	5 仕入	5,000
		20 仕入	5,000
	<u>20,000</u>		<u>20,000</u>

【解説】

解答の売掛金勘定と買掛金勘定の記入は、人名勘定別に示したが、次のように取引別に記入する場合もある。

総勘定元帳

売掛金				買掛金			
9/1 前月繰越	170,000	9/10 現金	50,000	9/5 現金	40,000	9/1 前月繰越	110,000
5 売上	16,000	〃 現金	30,000	〃 現金	25,000	5 仕入	20,000
10 売上	11,000	20 売上	1,000	20 現金	10,000	10 仕入	14,000
20 売上	12,000	30 次月繰越	144,000	30 次月繰越	84,000	20 仕入	15,000
30 売上	16,000				159,000		159,000
	225,000		225,000				

記入にあたっては、売掛金勘定と売掛金元帳の人名勘定(名古屋商店、横浜商店、札幌商店)との関係、買掛金勘定と買掛金元帳の人名勘定(大阪商店、京都商店、神戸商店)との関係をそれぞれ確認すること。たとえば、9月5日の取引では名古屋商店と札幌商店に対する売掛金が増加しているため、売掛金勘定の借方と名古屋商店と札幌商店の借方にそれぞれ記入する。

[問題9-12]

売掛金明細表			買掛金明細表		
	9月1日	9月30日		9月1日	9月30日
名古屋商店	¥ 100,000	¥ 76,000	大阪商店	¥ 60,000	¥ 45,000
横浜商店	〃 50,000	〃 35,000	京都商店	〃 40,000	〃 29,000
札幌商店	〃 20,000	〃 33,000	神戸商店	〃 10,000	〃 10,000
	¥ 170,000	¥ 144,000		¥ 110,000	¥ 84,000

【解説】

売掛金明細表および買掛金明細表には、期首と期末(本問では月初と月末)における取引先別の売掛金残高および買掛金残高が示される。したがって、本問では問題9-11の売掛金元帳と買掛金元帳から、取引先ごとの売掛金または買掛金の月末残高を求めればよい。

[問題9-13]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/3	仕入	40,000	買掛金	40,000
6	売掛金	50,000	売上	50,000
8	仕入	72,000	買掛金	70,000
			現金	2,000
11	売掛金	60,000	売上	60,000
	発送費	1,500	現金	1,500
12	売上	5,000	売掛金	5,000
18	買掛金	20,000	仕入	20,000

22	現 金	40,000	売 掛 金	40,000
25	買 掛 金	50,000	現 金	50,000

総勘定元帳

売 掛 金		買 掛 金	
4/1 前月繰越	50,000	4/12 売 上	5,000
6 売 上	50,000	22 現 金	40,000
11 売 上	60,000		
		4/18 仕 入	20,000
		25 現 金	50,000
		4/1 前月繰越	30,000
		3 仕 入	40,000
		8 仕 入	70,000

売掛金元帳

愛 媛 商 店		徳 島 商 店	
4/1 前月繰越	20,000	4/1 前月繰越	30,000
6 売 上	50,000	4/12 値 引	5,000
		11 売 上	60,000
		22 回 収	40,000

買掛金元帳

高 知 商 店		香 川 商 店		
	4/1 前月繰越	20,000	4/18 戻 し	20,000
	3 仕 入	40,000	4/1 前月繰越	10,000
			25 支 払	50,000
			8 仕 入	70,000

【解説】

それぞれの取引日における仕訳の注意点は、次のとおりである。

- (1) 4月8日の仕訳について、引取運賃は仕入原価に加えて処理する。
- (2) 4月11日の仕訳について、当店負担の発送費は発送費勘定(費用)で処理する。

[問題9-14]

<u>売掛金明細表</u>			<u>買掛金明細表</u>		
	4月1日	4月30日		4月1日	4月30日
愛媛商店	¥ 20,000	¥ 70,000	高知商店	¥ 20,000	¥ 60,000
徳島商店	" 30,000	" 45,000	香川商店	" 10,000	" 10,000
	¥ 50,000	¥ 115,000		¥ 30,000	¥ 70,000

【解説】

問題 9-13 の売掛金元帳と買掛金元帳から、取引先ごとの売掛金または買掛金の月末残高を求めればよい。

第 10 章 現金・預金の処理

[問題 10-1]

(1) (7) (10)

【解説】

- (1) 自己振出小切手は、当座預金勘定で処理される。
- (7) 収入印紙は、購入時は租税公課勘定で処理され、期末時点での未使用分は貯蔵品勘定に振り替えられる。
- (10) 郵便切手は、購入時は通信費勘定で処理され、期末時点での未使用分は貯蔵品勘定に振り替えられる。

[問題 10-2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金過不足	30,000	現金	30,000
(2)	支払手数料	30,000	現金過不足	30,000

総勘定元帳

現金

	現金過不足	30,000
--	-------	--------

現金過不足

現金	30,000	支払手数料	30,000
----	--------	-------	--------

【解説】

- (1) 現金の実際有高と帳簿残高が一致しない場合には、帳簿残高を増減させて実際有高に一致させる。本問では、実際有高<帳簿残高であるので、現金の帳簿残高を¥ 30,000 減少させ、これを現金過不足として処理する。
- (2) (1)における現金過不足の原因が判明したため、本来の正しい勘定である支払手数料勘定に振り替える。

[問題 10-3]

	貸方科目	金額	借方科目	金額
7/2	仕入	70,000	当座預金	60,000
			当座借越	10,000
3	広告宣伝費	30,000	当座借越	30,000
4	当座借越	40,000	売掛金	80,000
	当座預金	40,000		

5	買掛金	60,000	当座預金	40,000
			当座借越	20,000

当座預金			当座借越								
7/1	前月繰越	60,000	7/2	仕入	60,000	7/4	売掛金	40,000	7/2	仕入	10,000
4	売掛金	40,000	5	買掛金	40,000				3	広告宣伝費	30,000
									5	買掛金	20,000

[問題10-4]

当座預金出納帳

×年	摘要	収入	支出	借/貸	残高
7	1 前月繰越	60,000		借	60,000
	2 神戸商店から仕入		70,000	貸	10,000
	3 広告宣伝費支払		30,000	〃	40,000
	4 大阪商店から売掛金受取	80,000		借	40,000
	5 京都商店に買掛金支払		60,000	貸	20,000
	31 次月繰越	20,000			
		160,000	160,000		

[問題10-5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/1	小口現金	200,000	当座預金	200,000
	旅費交通費	56,000	小口現金	120,000
	消耗品費	12,000		
31	水道光熱費	15,000		
	雑費	37,000		
	小口現金	120,000	当座預金	120,000

(別解)5月31日の仕訳は次のように行ってもよい。

5/31	(借方)	旅費交通費	56,000	(貸方)	当座預金	120,000
		消耗品費	12,000			
		水道光熱費	15,000			
		雑費	37,000			

【解説】

(1) 5月1日の仕訳について、用度係への前渡額は、小口現金勘定で処理する。

(2) 5月31日の仕訳について、小口現金の支払明細(費用)は用度係からの報告時に仕訳を行う。また、定

額資金前渡法(インプレスト・システム)では、用度係が支払った額と同額を補給する。

[問題 10-6]

小口現金出納帳

受入	×年		摘要	支払	内訳			
					旅費交通費	通信費	消耗品費	雑費
32,000	6	5	前週繰越					
48,000		〃	本日補給					
		〃	お茶	6,000			6,000	
		6	帳簿・ノート	12,000			12,000	
		7	バス回数券	18,000	18,000			
		8	郵便切手	8,200		8,200		
		9	ボールペン・鉛筆	5,000			5,000	
		10	はがき代	4,500		4,500		
			合計	53,700	18,000	12,700	17,000	
		〃	次週繰越	26,300				
80,000				80,000				
26,300	6	12	前週繰越					
53,700		〃	本日補給					

【解説】

小口現金出納帳の記帳方法は次のとおりである。

- (1) 前週からの繰越金額は受入欄に記入する。
- (2) 小口現金を支払ったときには、支払欄と内訳欄に支払金額を記入する。
- (3) この問題に関しては 1 週間で締切られているため、週の終わりに支払欄と内訳欄の金額をそれぞれ合計して記入するとともに、内訳欄を締め切る。
- (4) 前週繰越額と週初めに補給された金額の合計から、今週の支払合計額を差し引いた金額を次週繰越額として赤字で記入する。
- (5) 前週繰越額と週初めの補給額の合計を受入欄に、今週の支払合計額と次期繰越の合計を支払欄にそれぞれ記入し、受入欄と支払欄を締め切る。
- (6) 補給額は受入欄に記入する。定額資金前渡法(インプレスト・システム)では、補給額は前週の支払合計額と同額である。

第11章 手形

[問題 1 1 - 1]

	商店	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	西宮	仕 入	10,000	買 掛 金	8,000
				現 金	2,000
(2)	西宮	売 掛 金	8,000	売 上	10,000
(3)	西宮	買 掛 金	8,000	支 払 手 形	8,000
				受 取 手 形	8,000
(3)	西宮	支 払 手 形	8,000	当 座 預 金	8,000
				尼崎	当 座 預 金

【解説】

約束手形を振り出したときは、支払手形勘定の貸方に記入し、受け取ったときは受取手形勘定の借方に記入する。また手形代金を支払ったときは、支払手形勘定の借方に記入し、受け取ったときは受取手形勘定の貸方に記入する。

[問題 1 1 - 2]

9月5日 大阪商店は、西宮商店へ商品¥1,000,000を売り上げ、代金として同店振出の約束手形¥1,000,000(#43, 振出日9月5日, 支払期日10月5日, 支払場所; 西北銀行甲東園支店)を受け取った。

西宮商店(9月5日)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 入	1,000,000	支 払 手 形	1,000,000

大阪商店(9月5日)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
受 取 手 形	1,000,000	売 上	1,000,000

【解説】

約束手形を振り出した方は、支払手形勘定の貸方に、受け取った方は受取手形勘定の借方に記入する。

[問題 1 1 - 3]

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	受 取 手 形	300,000	売 上	500,000
	現 金	200,000		
(2)	当 座 預 金	25,000	受 取 手 形	25,000
(3)	仕 入	10,000	受 取 手 形	5,000
			支 払 手 形	5,000

(4)	支払手形	8,000	売上	8,000
-----	------	-------	----	-------

【解説】

- (1) 約束手形を受け取った場合には、受取手形勘定の借方に記入する。
- (2) 手形代金を受け取った場合には、受取手形勘定の貸方に記入する。
- (3) 保有している手形を裏書譲渡すれば手形債権が減少するので、受取手形勘定の貸方に記入する。
- (4) 以前に本店が振出した手形が裏書譲渡されて戻ってきた場合は、支払手形勘定の借方に記入する。

[問題 1 1 - 4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	990,000	受取手形	1,000,000
	手形売却損	10,000		
(2)	当座預金	970,000	受取手形	2,500,000
	手形売却損	30,000		
	当座借越	1,500,000		

【解説】

- (1) 手形を割り引いた場合には、手形の裏書譲渡の時と同様に、受取手形の貸方に記入する。また、割引料¥10,000は手形売却損勘定で処理する。
- (2) 受取手形¥2,500,000と割引料¥30,000の差額のうち、¥1,500,000は当座借越の返済に充てられるため、残額の¥970,000が当座預金となる。

[問題 1 1 - 5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	受取手形	100,000	売上	200,000
	売掛金	100,000		
(2)	当座預金	98,500	受取手形	100,000
	手形売却損	1,500		
(3)	受取手形	200,000	売上	200,000
(4)	現金	197,000	受取手形	200,000
	手形売却損	3,000		

【解説】

- (1) 手形を裏書譲渡された場合には、受取勘定の借方に記入する。
- (2) 手形を割り引いた場合には、受取手形の貸方に記入する。また、割引料¥1,500は手形売却損勘定で処理する。
- (3) 約束手形を受けた場合には、受取手形勘定の借方に記入する。
- (4) 手形を割り引いた場合には、受取手形の貸方に記入する。また、割引料¥3,000は手形売却損勘定で処理する。

[問題 1 1 - 6]

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
9/1	仕 入	100,000	支 払 手 形 買 掛 金	60,000 40,000
9/20	仕 入	100,000	支 払 手 形	100,000
9/30	支 払 手 形	60,000	当 座 預 金	60,000

(支 払 手 形) 記 入 帳

×年	手形種類	手形番号	摘 要	受 取 人	振 出 人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末			
						月	日	月	日			月	日	摘 要	
9	1	約	12	仕 入	兵庫商店	当 店	9	1	9	30	西北銀行	60,000	9	30	支 払
	20	約	6	仕 入	広島商店	当 店	9	20	10	20	西北銀行	100,000			

【解説】

支払手形記入帳は、手形債務に関する内容を詳細に記録する補助記入帳としての補助簿である。具体的な記入方法は以下のとおりである。

- ① 日付欄：約束手形の振出日を記入。
- ② 手形種類欄：約束手形は「約」と記入。
- ③ 摘要欄：相手勘定科目を記入。
- ④ 受取人欄：手形振出時の受取人，すなわち約束手形の名宛人(兵庫商店)，(広島商店)を記入。
- ⑤ 振出人欄：手形を作成した振出人，すなわち当店を記入。
- ⑥ その他，手形番号欄，振出日欄，満期日欄，支払場所欄，手形金額欄は，約束手形に記載されている該当の項目をそのまま記入。
- ⑦ てん末欄：日付欄には手形満期日，摘要欄には決済の旨を記入。

[問題 1 1 - 7]

(受 取 手 形) 記 入 帳

×年	手形種類	手形番号	摘 要	支 払 人	振 出 人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末			
						月	日	月	日			月	日	摘 要	
5	1	約	61	売掛金	鳥取商店	鳥取商店	5	1	6	30	西宮銀行	50,000	5	30	割 引 (当座預金) 入 金 (当座預金) 裏書譲渡
	15	約	28	売 上	伊予商店	伊予商店	5	15	7	20	本州銀行	40,000	7	20	
	26	約	20	売 上	青森商店	青森商店	5	26	8	30	富山銀行	30,000	6	15	

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
5/ 1	受 取 手 形	50,000	売 掛 金	50,000
15	受 取 手 形	40,000	売 上	40,000
26	受 取 手 形	30,000	売 上	30,000

30	当座預金 手形売却損	49,000 1,000	受取手形	50,000
6/15	買掛金	30,000	受取手形	30,000
7/20	当座預金	40,000	受取手形	40,000

【解説】

受取手形記入帳は、受取手形の明細を詳しく記録する補助記入帳としての補助簿である。受取手形手形記入帳には、手形債権が増減した時、手形の明細を記入する。

5/ 1 売掛金の回収として鳥取商店振出、当店宛の約束手形¥50,000を受け取った。

15 商品¥40,000を売上げ、代金として伊予商店振出、当店宛の約束手形¥40,000を受け取った。

26 商品¥30,000を売上げ、代金として青森商店振出、当店宛の約束手形¥30,000を受け取った。

30 5/1に受け取った約束手形¥50,000を割引き、割引料¥1,000を差し引いた手取金を当座預金とした。

6/15 買掛金を支払うために、5/26に受け取った約束手形を裏書譲渡した。

7/20 5/15に受け取った¥40,000が満期日を迎えたので、手形代金が本州銀行を通じて当座預金に振り込まれた。

[問題 1 1 - 8]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	手形貸付金	1,000,000	当座預金 受取利息	972,000 28,000
(2)	現金	1,000,000	手形貸付金	1,000,000

【解説】

「手形貸付金」は、「貸付金」でもよい。

第12章 その他の債権債務

[問題 1 2 - 1]

		借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	当 店	貸 付 金	100,000	現 金	100,000
	大阪商店	現 金	100,000	借 入 金	100,000
(2)	売却時	現 金	60,000	備 品	160,000
		未 収 入 金	100,000		
	月 末	現 金	100,000	未 収 入 金	100,000
(3)	購 入 時	備 品	200,000	未 払 金	200,000
	月 末	未 払 金	200,000	現 金	200,000
(4)	当 店	現 金	400,000	前 受 金	400,000
	奈良商店	前 払 金	400,000	当 座 預 金	400,000

[問題 1 2 - 2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	従業員立替金	10,000	現 金	10,000
(2)	給 料	150,000	従業員預り金	5,000
			従業員立替金	10,000
			現 金	135,000
(3)	従業員預り金	40,000	現 金	40,000
(4)	仮 払 金	80,000	現 金	80,000
(5)	当 座 預 金	150,000	仮 受 金	150,000
(6)	旅費交通費	72,000	仮 払 金	80,000
	現 金	8,000		
	仮 受 金	150,000		

[問題 1 2 - 3]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現 金	50,000	商 品 券	50,000
(2)	商 品 券	80,000	売 上	100,000
	現 金	20,000		
(3)	他店商品券	50,000	売 上	80,000
	現 金	30,000		
(4)	商 品 券	40,000	他店商品券	50,000
	現 金	10,000		

[問題 1 2 - 4]

		借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)		貸付金	600,000	現金	600,000
(2)		当座預金	612,000	貸付金 受取利息	600,000 12,000
(3)	①	借入金 支払利息	100,000 4,500	当座預金	104,500
	②	現金	104,500	貸付金 受取利息	100,000 4,500

【解説】

(1) (3) 金銭の貸借により生じた債権・債務は、貸付金勘定と借入金勘定で処理する。

(2) 利息の計算は次のとおりである。

$$\text{貸付金額} \text{ ¥}600,000 \times \text{年利率 } 4\% \times \text{貸付期間 (年換算)} \frac{6\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} = \text{¥}12,000$$

(3) 利息の計算は次のとおりである。

$$\text{貸付金額} \text{ ¥}100,000 \times \text{年利率 } 6\% \times \text{貸付期間 (年換算)} \frac{9\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} = \text{¥}4,500$$

[問題 1 2 - 5]

		借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)		未収入金	60,000	備品	60,000
(2)		現金	60,000	未収入金	60,000
(3)		備品	450,000	当座預金 未払金	50,000 400,000
	(4)	未払金	400,000	当座預金	400,000

【解説】

(1) 備品の売却は主たる営業活動ではないので、売掛金勘定ではなく未収入金勘定で処理する。

(2) 備品の購入は主たる営業活動ではないので、買掛金勘定ではなく未払金勘定で処理する。

[問題 1 2 - 6]

		借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)		前払金	100,000	現金	100,000
(2)		仕入	250,000	前払金 当座預金 当座借越	50,000 120,000 80,000
	(3)	前受金 売掛金	20,000 80,000	売上	100,000

【解説】

- (1) 手付金を支払った場合、前払金勘定で処理する。
- (2) 商品仕入時には、手付金として支払った額を前払金勘定の貸方に記入し、仕入代金と相殺する。
- (3) 注文を受けた際に受け取った手付金は前受金勘定で処理している。商品引渡時には、手付金として受け取った額を前受金勘定の借方に記入し、売上代金と前受金を相殺する。

[問題 1 2 - 7]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	従業員立替金	50,000	現金	50,000
(2)	給料	680,000	所得税預り金	52,000
			社会保険料預り金	30,000
			従業員立替金	100,000
			現金	498,000
(3)	所得税預り金	42,000	現金	42,000
(4)	仮払金	100,000	現金	100,000
(5)	旅費交通費 通信費 現金	85,000 7,000 8,000	仮払金	100,000
(6)	当座預金	224,000	仮受金	224,000
(7)	仮受金	224,000	売掛金	224,000

【解説】

- (1) 従業員に対する給料の前貸しは、従業員立替金勘定で処理する。
- (2) 従業員の所得税の源泉徴収額は所得税預り金勘定で、社会保険料の従業員負担分は社会保険料預り金勘定で、それぞれ処理する。
- (5) 仮払金勘定は、内容または金額が未確定な支出を一時的に処理する勘定である。内容または金額が確定した時点で、該当する勘定に振り替える。(6)と(7)の仮受金も同様である。

[問題 1 2 - 8]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	200,000	商品券	200,000
(2)	商品券	50,000	売上	48,000
			現金	2,000
(3)	商品券 現金	98,000 2,000	売上	100,000
(4)	他店商品券	100,000	売上	100,000

(5)	商 品 券	400,000	他店商品券 現 金	350,000 50,000
-----	-------	---------	--------------	-------------------

【解説】

- (1) 商品券を発行したときには、後日これと引き換えに商品を引き渡す義務が生じるので、これを商品券勘定で処理する。
- (2) 商品と引き換えに当店発行の商品券を受け取った場合には、その金額を商品券勘定の借方に記入する。
- (4) 商品販売時に、提携している他店が発行した商品券を受け取った場合には、後日、他店からその商品券と引き換えに商品代金を受け取る権利が生じるので、これを他店商品券勘定で処理する。

第 13 章 有価証券の処理

[問題 13-1]

- (2) 期限の到来した公社債の利札
 (3) 配当金領収証

【解説】

- (1) 手形は、受取手形勘定で処理される。
 (4) 他店商品券は、他店商品券勘定で処理される。

[問題 13-2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	有 価 証 券	750,000	当 座 預 金	750,000
(2)	現 金	425,000	有 価 証 券	375,000
			有 価 証 券 売 却 益	50,000
(3)	有 価 証 券	506,000	当 座 預 金	506,000
(4)	当 座 預 金	590,000	有 価 証 券	404,800
			有 価 証 券 売 却 益	185,200
(5)	有 価 証 券	4,925,000	当 座 預 金	4,925,000
(6)	現 金	963,000	有 価 証 券	985,000
	有 価 証 券 売 却 損	22,000		

【解説】

- (3) 購入時の付随費用(買入手数料その他)は有価証券の取得原価に含める。
 (4) 売却時に支払手数料は売却代金から差し引く。

① 純手取額の計算

売却代金	¥150 × 4,000 株 = ¥600,000
売却手数料	= <u>¥10,000</u>
純手取額	= <u>¥590,000</u>

- ② 売却した有価証券の取得原価

$$¥506,000 \times \frac{4,000 \text{株}}{5,000 \text{株}} = ¥404,800$$

- (5) 国債の取得原価は次のように計算する。

$$\text{取得原価} = ¥5,000,000 \times \frac{@ ¥98.50}{@ ¥100} = 4,925,000$$

- (6) 国債の売却代金は次のように計算する。

$$¥1,000,000 \times \frac{@ ¥96.30}{@ ¥100}$$

[問題 1 3 - 3]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	80,000	有価証券利息	80,000
(2)	当座預金	164,000	有価証券利息	164,000
(3)	現金	5,000	受取配当金	5,000

【解説】

国債、社債などに対する利息を受け取ったときには、有価証券利息勘定の貸方に記入する。株式に対する配当金を受け取ったときには、受取配当金勘定の貸方に記入する。なお、利払日を迎えた国債、社債などの利札や配当金領収証は、現金として処理する。

[問題 1 3 - 4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	有価証券	12,100,000	当座預金	10,000,000
			当座借越	2,100,000
(2)	当座借越	2,100,000	有価証券	8,470,000
	当座預金	7,680,000	有価証券売却益	1,310,000

【解説】

- (1) 購入時の付随費用(買入手数料その他)は有価証券の取得原価に含める。
 (2) 売却時には売却手数料は売却代金から差し引く。

① 純手取額の計算

売却代金	¥140,000 × 70 株	= ¥9,800,000
売却手数料		= <u>¥ 20,000</u>
純手取額		= <u>¥9,780,000</u>

- ② 売却した有価証券の取得原価

$$¥12,100,000 \times \frac{70 \text{株}}{100 \text{株}} = ¥8,470,000$$

第 14 章 固定資産の処理

[問題 1 4 - 1]

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	車両運搬具	610,000	当座預金	610,000
(2)	建 物	5,300,000	当座預金	5,000,000
			現 金	300,000
(3)	土 地	5,300,000	当座預金	5,300,000
(4)	備 品	407,000	当座預金	207,000
			未 払 金	200,000

【解説】

固定資産の取得原価は購入代価と付随費用の合計額であり、仲介手数料、登録料などの付随費用は取得原価に含める。

[問題 1 4 - 2]

	減価償却費	備品減価償却累計額
1 年目	125,000	125,000
2 年目	125,000	250,000
3 年目	125,000	375,000
4 年目	125,000	500,000
5 年目	125,000	625,000
6 年目	125,000	750,000
7 年目	125,000	875,000
8 年目	124,999	999,999

【解説】

毎年の減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen1,000,000 - \yen0}{8\text{年}} = \yen125,000$$

残存価額ゼロの場合、帳簿価額が備忘価額 1 円になるまで減価償却することとされているため、8 年目の減価償却費は¥124,999 となる。

[問題 1 4 - 3]

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	減 価 償 却 費	450,000	建 物	450,000
(2)	減 価 償 却 費	450,000	建物減価償却累計額	450,000

(1) 直接法

建 物		減価償却費	
4/1 当座預金	5,000,000	3/31 減価償却費	450,000
		3/31 建 物	450,000

(2) 間接法

建 物		建物減価償却累計額	
4/1 当座預金	5,000,000		
		3/31 減価償却費	450,000

減価償却費	
3/31 建物減価償却累計額	450,000

【解説】

減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen5,000,000 - \yen500,000}{10年} = \yen450,000$$

- (1) 直接法では、減価償却費を固定資産勘定の貸方に記入し、固定資産の取得原価を直接減額する。
(2) 間接法では、減価償却費を減価償却累計額勘定の貸方に記入し、固定資産の取得原価を直接減額しない。

[問題 1 4 - 4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	減 価 償 却 費	315,000	建 物	315,000
(2)	減 価 償 却 費	50,000	備品減価償却累計額	50,000
(3)	減 価 償 却 費	100,000	備品減価償却累計額	100,000

【解説】

(1) 減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen7,000,000 - \yen700,000}{20年} = \yen315,000$$

(2) 減価償却費の計算は次のとおりである。

$$\frac{\yen300,000 - \yen0}{6年} = \yen50,000$$

(3) 期中に固定資産を購入した場合の減価償却費の金額は、固定資産の使用期間に基づき、年間の減価償却費を月割計算して求める。

$$\frac{\yen600,000 - \yen0}{5年} \times \frac{10カ月}{12カ月} = \yen100,000$$

[問題 1 4 - 5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	13,000,000	車両運搬具	20,000,000
	車両運搬具減価償却累計額	9,000,000	固定資産売却益	2,000,000
(2)	未収入金	30,000	備品	1,000,000
	備品減価償却累計額	737,500		
	固定資産売却損	232,500		

【解説】

固定資産を売却した場合は、売却価額と帳簿価額との差額を固定資産売却益勘定の貸方または固定資産売却損勘定の借方に記入する。

- (1) 売却した自動車の帳簿価額は、取得原価 ¥20,000,000 から減価償却累計額 ¥9,000,000 を控除した ¥11,000,000 である。売却価額 ¥13,000,000 > 帳簿価額 ¥11,000,000 であるので、差額の ¥2,000,000 を固定資産売却益勘定の貸方に記入する。
- (2) 当期の減価償却費はすでに計上済みなので、売却時の減価償却累計額は ¥737,500 (¥700,000 + ¥37,500) である。売却した備品の帳簿価額は、取得原価 ¥1,000,000 から減価償却累計額 ¥737,500 を控除した ¥262,500 である。売却価額 ¥30,000 < 帳簿価額 ¥262,500 であるので、差額の ¥232,500 を固定資産売却損勘定の借方に記入する。

[問題 1 4 - 6]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	200,000	建物	1,000,000
	建物減価償却累計額	900,000	固定資産売却益	100,000
(2)	未収入金	100,000	備品	400,000
	備品減価償却累計額	240,000		
	固定資産売却損	60,000		
(3)	現金	130,000	備品	200,000
	備品減価償却累計額	40,000		
	減価償却費	20,000		
	固定資産売却損	10,000		

【解説】

固定資産を売却した場合は、売却価額と帳簿価額との差額を固定資産売却益勘定の貸方または固定資産売却損勘定の借方に記入する。

- (1) 売却した建物の帳簿価額は、取得原価 ¥1,000,000 から減価償却累計額 ¥900,000 を控除した ¥100,000 である。売却価額 ¥200,000 > 帳簿価額 ¥100,000 であるので、差額の ¥100,000 を固定資産売却益勘定の貸方に記入する。
- (2) 売却した備品の取得日から売却時まで 3 回決算が行われているので、3 年分の減価償却費が減価償却累計額に記録されている。この金額は次のように計算される。

$$\frac{\yen400,000 - \yen0}{5\text{年}} \times 3\text{年} = \yen240,000$$

したがって、売却した備品の帳簿価額は $\yen160,000$ ($\yen400,000 - \yen240,000$)である。これと売却価額 $\yen100,000$ との差額 $\yen60,000$ を固定資産売却損勘定の借方に記入する。

- (3) 期中で固定資産を売却した場合、その固定資産の帳簿価額を求めるためには、過去の決算において費用計上された減価償却費の累計額、すなわち減価償却累計額と当期の期首から売却時までの減価償却費を計算しなければならない。

本問では、売却した備品の帳簿価額を求めるために、取得時(×5年4月1日)から前期の決算日(×6年3月31日)までの減価償却累計額と×6年4月1日から売却時(×6年9月30日)までの減価償却費(6ヵ月分)を計算しなければならない。

減価償却累計額(つまり前期末までの減価償却費)は次のように計算する。

$$\frac{\yen200,000 - \yen0}{5\text{年}} \times 1\text{年} = \yen40,000$$

また、当期の減価償却費は次のように計算する。

$$\frac{\yen200,000 - \yen0}{5\text{年}} \times \frac{6\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} = \yen20,000$$

売却した備品の帳簿価額は $\yen140,000$ ($\yen200,000 - \yen40,000 - \yen20,000$)となり、この金額と売却価額 $\yen130,000$ との差額 $\yen10,000$ を固定資産売却損勘定の借方に記入する。

第 15 章 その他(資本金と引出金・営業費・訂正仕訳・税金)の処理

[問題 15-1]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	10,000,000	資本金	12,500,000
	土地	2,500,000		
(2)	現金	2,000,000	資本金	2,150,000
	備品	150,000		

【解説】

開業時の元入れと追加出資に関する仕訳である。追加出資の場合も元入れと同様に、資本金の増加と考えればよい。

[問題 15-2]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	引出金	95,000	現金	50,000
			仕入	45,000
(2)	資本金	250,000	引出金	250,000

【解説】

- (1) 店主の私用による現金の減少と商品の減少であるため、引出金勘定を用いて処理する。商品の減少は仕入勘定で処理する。また商品の減少は売価でなく原価で評価する。
- (2) 決算においては、引出金勘定の残高を資本金勘定の借方(資本金の減少)へ振り替える。

[問題 15-3]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	損益	12,500	資本金	12,500
(2)	資本金	7,900	損益	7,900

【解説】

(1) 諸収益(¥80,350)－諸費用(¥67,850)＝当期純利益(¥12,500)

(2) 諸収益(¥42,500)－諸費用(¥50,400)＝当期純損失(¥7,900)

当期純利益は資本金勘定の貸方へ、当期純損失は資本金勘定の借方へ振り替える。

[問題 15-4]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	広告宣伝費	140,000	当座預金	140,000
(2)	支払手数料	1,000,000	当座預金	1,000,000

[問題 15-5]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	引出金	30,000	当座預金	30,000
(2)	租税公課	25,000	現金	25,000
(3)	租税公課	80,000	現金	100,000
	引出金	20,000		
(4)	引出金	20,000	租税公課	20,000

【解説】

- (1)(2) 「費用となる税金」と「費用とならない税金」の処理に関するものである。住民税は「費用とならない税金」であり、引出金勘定で処理し、登録免許税は「費用となる税金」であり、租税公課勘定で処理する。
- (3) 店主個人住居分に関する支出は、資本金の減少であり、引出金勘定で処理する。
- (4) 「租税公課」という費用を減少（誤った処理を取り消し）し、その分を「引出金」という用いるべきであった勘定科目に置き換える。